

「次ノ戦争に対スル意見」 元 大日本防空協会理事長 松村光麿

(国立国会図書館蔵一米国戦略爆撃調査団報告)

(22)

No. 1

昭和年月日

次、戦争に対する意見
元大日本防空協会理事長 松村光麿

一、民防空、指導方針
（）戦争前確立シ一般国民
群衆並衛生充分徹底セシムルコト
此度、戦争ニ於テハ防空、指導方針確立セズ當初
防空ハ軍部ニ於テモ又内務省ニ於テモ重要視セ
ザリキ、九州方面ニ於テ半空軍、空襲セシムクルニ
至ツア初ナテ防空ノ重要性ヲ痛感スルニ至リタルモ
徹底シタル施策ハ尚之ヲ行ハザリキコマリヤナ「基地
ヨリノ空襲激化シテ漸ク眞ニ其ノ徹底シタル施
設、必要ヲ認メ急速ニ強化方門ヲトリタリ然ニ
時期既ニ遙ク實行困難ナリキ。
次、戦争ニ際シテ、戦争指導、最高幹部

於テ 戰爭方法、变化、航空機、性能、爆弾、活性
等ニ以キ其ノ現狀、發展性ニ充布ナル檢討ヲ加
ヘ合理的防護指揮方針ヲ決定スルモノトス。此
決定ニ當リテ、軍部内、專向家、勿論軍部外
、專向家、意見ヲ充分尊重スルモノトス。

此後、戰爭ニ於テ、軍部内、專向家、意見、
勿論軍部外、專向家、意見等、極力輕視
セラレ、戰爭指導、最高幹部、自己、常識
ヲ以テ、防護ニシキテモ獨斷的判断ヲ以テ其ノ指
導方針トシタル以テ、一貫シタル指導性ヲ缺キ
常ニ動搖シ、國民ヲシテ歸郷ニ迷シナ指導
者、權威ヲ失墜シタル觀アリタリ。

三、民防室ニ對スル内務省ノ防空担当機関ヲ強力化シ政府各省ニ對スル指導力ヲ一段ト強化スルコト

都市町村ニ於ケル防空指導ヲ一元化スルコト。
内務省ハ前二項ノ實行ニ當リテ防空協会及支
部ノ活動ヲ利用スルコト

陸海軍省ニ於テ民防空ヲ直接担当スベシ
トスル論アルモ内務省ニ相當セシムルヲ適當且
可ナリト信ズ

三、防空協會ハ更ニ資金の強大ニスベシ其一費
用ハ大部布ヲ政府ヨリ補助スベシ

次、戦争ニ當リテハ急速且大規模ニ又徹底的
ニ国民各自ヲシテ防空施設ヲ行シムルノ要アリ

No. 3

之が為ニ相當多額、資金ヲ急速ニシ要トス
即チ政府之ガ助成ヲナス必要アル所以ナリ。
一般有志者、寄附ニ俟ツガ如キ方針、商賈セ
ズ然シ戰争継続中、有志、寄附ノ之ヲ受
クルモノトシ、政府補助金、補完作用ヲ
ナスモトス。

四、防空協會ノ組織ヲ強化スベシ。

防空ノ各方面ニ亘ルヲ以テ協會ノ幹部ニハ若
方面、機械者、技術者等ヲ網羅スベキモノ
ナス。

陸海軍部、固有者、建築、土木、消防、鉄道
船舶、化學、機械、工場、礦山、醫師、藥剤
師、茅、技術者、經營者等ヲ包含スルヲ要ス。

No. 4

昭和

漢葉

日

高

(15)

地方支部、内閣ヲ充實シ、支部、都道府
縣、ミナラズ各都市モ之ヲ設置シ、沿岸ナ
ル沿岸アナコトトス。

警防團員、家庭防護隊、消防、指導ニツ
キテモ其ノ一部ア協会、於テモ担当スルモノ
トス。

五、防毒マスク、消防ホン、銳兜等、戦争
開始前、相當準備シ置キ、戦争開始、
當リテ、無料、般正、國民、配給スル要ア
リ。全部ア戦争前、準備出来サルトキハ
戦争開始後短日時、製造シ配給スルコト

ア要ア。

No. 5

六、民防役人資材、戦争ニ障シ一室当量ヲ
弔定シゆえニア確保シ配給スルコト
防空壕建設、資材一セメント、鉄筋ヲハシナト
シテ建築物、防護、為、必要ナル資材ハ勿
論各種資材、並有且必要ナル施設ニ於テ
確保スルコト要ス

此度、戦争ニ於テ此矣、準備、皆無ナリキ。
各方面ニ必要ナル物資、豈容ナル予備貯蔵
ノ極力獎勵スルコト中要ナリ

七、防空協會、防空ニ因スル發明、考案、活動
ナル發展ヲ助成シ、其、良好ナルモノヲ擇ビ普
及ヲ図ルコトス。

防空軍需品、機械、手段等ニキ各方面ノ創

意ヲ促シテ、発明、考案の、模倣ヲ行ヒ其
良好ナルモノ、一般ニ普及スルモノトス

八、防空指導者、講習、教育等、更ニ大規
模且急進ニ行ヒ得ル様準備スベシ。

九、防空協會、安全十場所、印刷所ヲ所
有シ紙茅、充分ニ用意シ置クヘシ

印刷、空襲激化、伴ヒ困難ナルヲ以テナリ。

No. 9